

第1学年歯科医院見学実習における学生の実習態度

—指導医による評価と学生の自己評価について—

山崎 晴美^{1,2} 上原 任^{1,2} 押川麻衣子^{1,2} 尾崎 哲則^{1,2} 中島 一郎^{1,3}

Evaluation of Practice Attitude by Dentists and Students

Haruyoshi Yamazaki^{1,2}, Tamotsu Uehara^{1,2}, Maiko Oshikawa^{1,2}, Tetsunori Ozaki^{1,2}, Ichiro Nakajima^{1,3}

Abstract

As part of the first year curriculum recommended by Nihon University School of Dentistry, the students are required to attend clinical sessions in dental clinics as observers. The present study compared the evaluations by the dental clinicians and the self-evaluations by students. The authors prepared a checklist containing categories of behavior, attitude, understanding and knowledge, with two choices: "sufficient" and "insufficient." The students were asked to evaluate themselves based on the checklist. After obtaining their responses, the dentists who took part in the class were asked to evaluate the students using the same checklist.

The authors compared the results of the 16 categories evaluated by both the students and dentists. Approximately 90% of the students and dentists evaluated 13 categories of student behavior and attitude as "sufficient."

The only significant difference between the evaluations of students and dentists was in the additional category for free comments, where most of the students expressed their needs to attain knowledge related to actual clinical treatment, in quite a good contrast with the dentists' responses—their needs to have students with good manners.

Key words: dental education, early exposure, professionalism, dental clinics, student behavior.

緒 言

早期体験学習 (Early Exposure) は、川本によれば、「多様化する新入歯科学生に対して勉学の目的を早期に明確に認識させるために現場を体験させる」ことであり、歯科医学教育において実施している大学は19校で半数以上であり、①附属病院(歯科)、②医学部附属病院、③近隣

の歯科医院、④介護施設、⑤福祉施設、⑥身障者施設など、各大学でさまざまな実施方法がとられている¹⁾。宮川のその後の報告では、実施する大学は増え、全歯学部で実施という回答がされている²⁾。

歯科医院、附属歯科病院での早期体験学習について報告したのを見ると、その教育プログラムについて評価を行ったもの³⁾⁴⁾⁵⁾、学生の観

¹ 日本大学歯学部 医療人間科学教室

² 日本大学歯学部総合歯学研究科社会歯学研究部門

³ 日本大学歯学部総合歯学研究科顎口腔機能研究部門

〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13

(受理: 2012年9月30日)

¹ Department of Community Dentistry Nihon University School of Dentistry

² Division of Social Dentistry, Dental Research Center, Nihon University School of Dentistry

³ Division of Oral and Craniomaxillofacial Research, Dental Research Center, Nihon University School of Dentistry

1-8-13 Kanda-Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8310, Japan

察の成果、目標の達成度について評価を行ったもの⁶⁾、数回に渡る見学の見学前、途中、見学後に行われるグループ討論の意見から実習の意義を考察したもの⁷⁾などがある。態度教育としての早期体験実習では、いわゆる社会科見学とは異なり、観察をする事だけが目的ではなく、プロフェッショナルリズム教育の一環として、職場としての臨床現場の中で実習生がふさわしい行動、態度をとることが求められる。しかし、この見学に伴う学生の行動、態度について、受け入れ施設の評価と、学生の自己評価を比較したものは見あたらない。

本学では、歯学部の中でもいち早く2000年より早期体験実習を取り入れている。第1学年で「歯科医院見学実習」を、第2学年では「歯科病院見学実習」を、そして第3学年では「社会福祉施設見学実習」を実施している。そこで、本研究では、第1学年で行われている「歯科医院見学実習」における学生の实習態度について、歯科医院でご指導いただいた歯科医師による評価と、学生による自己評価を比較し検討を行うこととする。

方 法

1. 調査対象

調査対象は、2007年度に第1学年の見学実習を引き受けていただいた歯科医院（東京都43(区部36, 市部7), 埼玉県13, 神奈川県6, 千葉県3, 静岡県1)の指導医66名、および、実習を行った学生129名である。

2. 調査票の作成

従来より、見学先でご指導いただいている指導医には、学生の事前の準備、見学態度、実習成果等について評価票を用いて4段階の評価をお願いし、本学での学生の指導に役立てている。しかし、見学実習に対して指導医が評価項目で良い評価を与えた場合でも、学生の実習態度や学習内容など、評価項目で捉えられない事柄に

ついてコメントが寄せられることも多い。そこで、本研究では、学生の見学実習にかかわる行動、態度の達成について、指導医による評価と学生の自己評価を比較するために以下の項目からなる質問票を作成した。

- (1) 行動チェックリスト：評価票に寄せられるコメントを参考に作成した。すなわち、表1に示すような、見学実習に伴う学生の具体的な行動に関する質問項目、すなわち①事前面接について6項目、②見学実習当日について8項目、③実習終了後のお礼状または年賀状1項目の計15項目と、④知識について3項目の計18項目を、「十分である(できた)/不十分である」の2件法で回答を求めるものである。なお、事前面接の依頼電話は、複数名の学生を受け入れていただいている歯科医院について

表1 チェックリストの項目

事前面接について
・面接依頼電話(電話を行った学生)
・服装
・髪型
・挨拶
・面接の応答
・面接態度
見学実習当日について
・服装(通院時)
・服装(白衣等)
・髪型
・挨拶
・言葉使い
・見学態度
・休憩時間の過ごし方
・実習日誌の記載について
実習終了後
・お礼状 or 年賀状(学生のみ)
知識について
・実習テーマに関する事
・歯科医院の設備等
・言葉遣い・マナー

は、代表者1名がかけることになっているため、電話をかけた学生のみでの回答となる。また、お礼状についての項目は学生のみ実施したものである。そこで、本研究ではこの2項目を検討の対象から除外し、16項目について分析を行った。

- (2) 自由記述：実習の事前教育において、大学でより詳しく教育してほしい項目を自由記述で尋ねるものである。設問は「見学実習に際して、もう少し詳しく教えてほしいかと思う事柄をキーワードで3つあげて下さい」というものである。

3. 手続き

2007年度第1学年129名の見学実習を引き受けていただいた66歯科医院に対して、前項の調査票を、各引き受け学生数分送付し、郵送にて返送を依頼した。また、実習を行った学生に対しても、自己の見学実習を振り返り回答するよう説明し、講堂に置いた回収箱へ投函するよう依頼した。いずれも教育研究への協力をお願いし、記入に際しては、実習施設名および学生名は無記名とした。また、学生に対しては、協力は自由であり、評価には一切関係しないことを説明した。

4. 調査期間

調査期間は、学生に対しては2008年1月、指導医に対しては同2月に実施。

5. 回収票数

回収票は、指導医からは114通(53施設)、学生118通である。

結 果

1. チェックリストの結果から

- (1) 各質問項目に対する反応数について

16の項目それぞれについて、「十分である(できた)」と評価された割合はどれくらいであろうか。指導医と学生のそれぞれの回答数について、「十分である(できた)」「不十分である」を合

せたものを100とし、「十分である(できた)」と評価された人数をパーセントで比較したものが図1である。

「評価(十分/不十分)」の比率について、「質問項目(16項目)」、「評価者(指導医/学生)」とともに3元配置の要因分析を行ったところ、主効果では「評価」で有意な傾向が見られ、「十分(出来た)」は、「不十分」より有意に多い($F=2363, v=1/31, p<.01$)。また、「評価」×「質問項目」で有意な交互作用が認められ、項目によって「評価(十分/不十分)」の比率が異なることが示された。

「事前面接について」と「見学実習当日について」の評価を見ると、指導医と学生の自己評価に大きな差は見られず、ほぼ9割の学生は「十分である(できた)」と評価されている。また、「休憩時間の過ごし方」と「実習日誌の記載について」では、交互作用は有意ではなかったが、

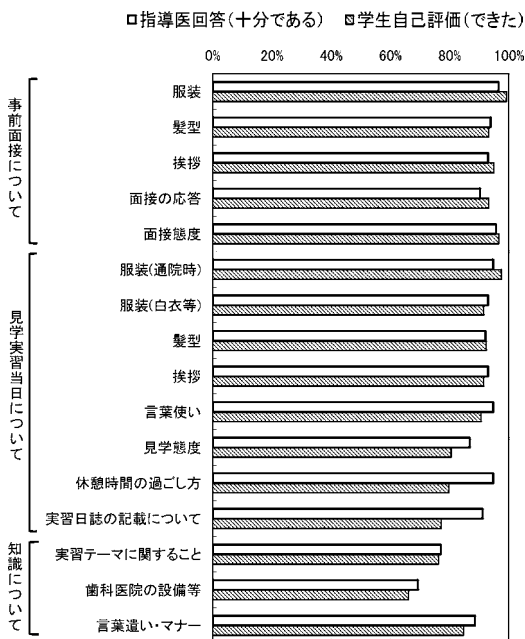


図1 各質問項目における「十分である/できた」の回答の割合

学生の自己評価は指導医より 10 ポイント低く
なっていた。

「知識について」で「十分である(できた)」
のは、「言葉遣い・マナーはなどの知識」に関し
ては前記の項目と同様 9 割であった。しかし、
指導医と学生の自己評価ともに、「実習テーマの
知識」については約 75%、「歯科医院の設備」に
ついては 70%と低い。

(2) 指導医と学生による評価傾向の差について
一人の学生の 16 の評価項目について「不十分
である」の評価が幾つあったかその個数ごとに、
指導医と学生のそれぞれの人数の百分率で示し
たものが図 2 である。

指導医および学生の自己評価ともに「不十分
である」が 0 個と評価するものが最も多く、以
下個数が増すにつれ人数は減少している。なお、
指導医による評価では、「不十分である」が 0 個
と評価された学生は 57%で、0 個と自己評価す
る者 36%を大きく上回っている。ついで 1~5
個まででは学生の方が人数は多くなる。6 個以
上「不十分である」と評価された者の割合は指
導医で 9.8%、学生の自己評価では 4.9%であ
った。

2. 事前教育への要望—自由記述の結果から

歯科医院見学の事前教育で指導してほしい事

柄についてキーワード 3 語で回答を求めたもの
を分類し、指導医、学生別に示したものが表 2
である。

事前教育への要望では、「職業としての歯科医
師」「実習の実施に関連するもの」をあげている
点は一致している。しかし、もっとも多くの学生
は「治療に関する知識(治療行為、器具の名
称等)」を望むのに対し、指導医は「実習態度(身
なり、意欲、言葉づかい等)」を多くあげており、
両者の意識の違いが認められた。

考 察

1. チェックリストの結果から

(1) 各質問項目に対する反応数について

有意ではないが、学生の自己評価で「休憩時
間の過ごし方」と「実習日誌の記載について」
が低くなったのは、休憩時間の行動目標は設定
しにくく何をすればよいか明確でないため、ま
た実習日誌については文章を書くことに苦手意
識があったためと思われる。

(2) 指導医と学生による評価傾向の差について

指導医の方が「不十分である」を 0 個と答
えているものが多い、本調査では「十分である/
不十分である」の 2 件法によったため、「教育を始
めたばかりの 1 年生としてこれくらい出来てい
ればよいか」との判断で評価いただいた結果か
と思われる。一般に、指導教員はネガティブな
コメントについては、学生を傷つけないよう控
える傾向があると思われる。しかし、まれであ
るからこそネガティブなコメントは非常に深刻
に受け止めるべきであると言われる⁸⁾。人数と
しては少ないが、6 個以上「不十分である」と
の評価は指導医の方が多く、実習態度の劣っ
ている学生は、自分の不十分な点について過小
評価する可能性も指摘されよう。

コズグループは、将来のプロフェッショナリ
ズムに関する問題に、学生時代の問題行動が関
連していることを示す研究を紹介し、学業上の

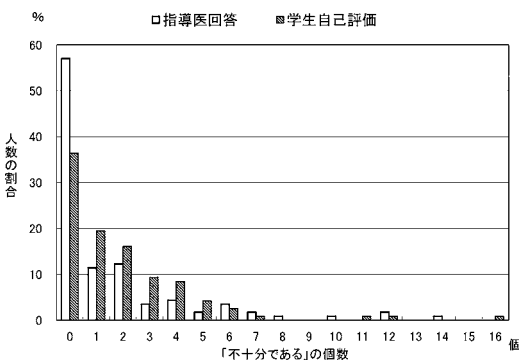


図 2 学生の「不十分である」と評価された項目数
の分布

表2 事前に大学で指導してほしい事柄

分類	学生からの要望（総計 110 件）		指導医からの要望（総計 149 件）	
	計	回答の内容	計	回答の内容
治療に関する知識	48	診察, 初診, 往診, 治療に関すること (21), 治療の中で大変なこと (2), 機械や設備について, 歯科治療器具 (11), 歯科医院の設備 (8)	8	歯科治療 (2), 器材の名称 (2), 歯科医院の設備 (4)
歯科医業に関する知識	17	歯科医師の仕事, 先生が歯科医師をどう考えているか, 理念, コンセプト, その場所でなぜ開業したか, 歯科医院の現状 (2), 診療所運営システム, 歯科医師の組織, 各スタッフの業務内容, 歯科衛生士, 現場の忙しさ, 会計, 収入, 医療事故, 保険の仕組み, 免許の有無	29	歯科医師とは (4), 歯科医療人としての哲学 (2), 医療とは, 人間とは, EBM (2), 健康とは (2), 心のケア, 展望 (3), 倫理, 歯科医院の基礎知識 (2), スタッフ, 歯科衛生士, 歯科技工士, 業務内容 (2), 経営, 医療安全 (2), 医療訴訟, 医療保険制度
コミュニケーション	15	コミュニケーション (4), スタッフとのコミュニケーション, スタッフミーティング (2), スタッフとの連携, 患者とのコミュニケーション (3), 説明, 患者さんの心理状況を示すサイン, 子供との接し方, 子供の治療	13	コミュニケーション (8), インフォームドコンセント (2), 医療面接, チーム医療 (2)
実習の進め方	12	面接, 見学時間, 担当先生の情報, 立ち位置, 実習日誌の書き方, レポート, 掃除の仕方, 夜の時間帯の治療, 玄関, トイレ, 知識, 詳細	5	事前の学生間の打ち合わせ (2), 立ち位置の確認 (2), 実習日誌の記載
見学態度に関すること	8	人格, 意識, 熱意, 実習終了後のマナー, 挨拶の仕方, お礼状・年賀状, 言葉使い, スタッフの方との接し方	82	見学態度 (4), 人格, 自覚 (4), 責任感 (4), 積極性 (11), 明るく, 笑顔, 思いやり, 社会性, 協調性, 規律 (2), マナー (5), 服装 (6), 白衣 (3), 身だしなみ (2), 髪型 (2), 顔, 体型, 言葉使いのマナー (11), 挨拶 (10), 返事 (2), 質問をする, 報告 (2), 電話依頼, 声を出すこと (2), 意思表示, 時間の使い方 (3)
実習の目的 (5)	5	実習テーマに関すること, 注意点, 見学する上での注目点 (3)	12	実習テーマに関すること (5), 実習の目的 (5), 見学 (2)
その他 (5)	5	とくにない (4), 十分です (1)	0	

問題とともに具体的な問題行動に対して対応を検討すべきであることを示唆している⁹⁾。自分の行動が臨床の現場では受け入れられないことを知ることは、初期の段階から必要であると思われる。

2. 事前教育への要望について

本見学実習では、前期の準備教育の後、夏期休暇中に、将来の職場となる歯科医院(歯科診療所)の見学を行う。治療以外の側面から歯科医院の一日を観察することを目的とし、「共通実習テーマ(一般教育目標:GIOに相当)」として「歯科医院における人間関係を知る」、「個別実習テーマ(個別行動目標:SBOsに相当)」として、①職業としての歯科医師を知る、②組織としての歯科医院のあり方を知る、③地域における歯科医院のあり方を知るを掲げ、歯科医師でも患者でもない第3者的な立場で見学していくことを目的としている⁹⁾。

2007年度の実習前教育においては、歯科医院について理解を含めていくことを目的として、「職場の人間関係」「歯科医院の人間関係」「地域における人間関係」について講義形式で50分4コマ、実習テーマを明確にしていくために、少人数でのグループディスカッションを50分2コマ、「実習の意義」について講義形式で50分1コマ設けている。また、これと並行して実習の進め方について、書類作成を含め50分3コマを当てている。そして、各学生には、見学に先立って歯科医院を訪問し、「共通実習テーマ」のもと、具体的な個別行動目標としてどのようなものを据えるか、3つの個別実習テーマのうちから、指導医と相談の上で2つ決定するよう指導している。

一方、指導医の方々に対しては、実習引き受けのお礼書とともに、指導マニュアルとして「採用面接の進め方(A4判2頁)」、具体的な指導例を含む「歯科医院見学実習 指導上のご願い(A4判6頁)」、学生に配布した「実習必携」を

送付させていただき、指導の一助としていただいている。

本調査票では、この事前教育において、より詳しい指導を望む項目について尋ねている。結果を見ると、事前教育への要望は、指導医と学生とで大きく異なっていた。

初めて歯科医療の現場を見た学生は「治療に関する知識」に惹かれている。これはやむを得ないことであり、今後の歯科医学への動機付けと考えることも出来る。しかし、事前教育での「治療に関する知識」を指導医は求めている。前項のチェックリストで、歯科医院の設備に対する知識の項目が「十分である/不十分である」との回答は、指導医と学生による評価ともに70%と、他の項目に比較して最も低かったが、学生と指導医とでその意味するところは異なり、指導医は、第一学年では歯科医学の知識は無いのが当然であり、それよりは歯科医院見学実習本来の学習目標を大切にしたいと考えて下さっていると思われる。

一方、指導医では「見学態度」に関する事前教育が82件とたいへん多くあげられている。これは、学生の見学態度が不十分であるとの評価とも受け取れるが、むしろ、ソーシャルスキルとしての、また人格形成の一面としての見学態度のキャリア教育での重要性、関心の高さを示すものと言えよう。しかし、学生の要望には「見学態度」の指導を求める者は少ない。

指導医では次いで「歯科医業に関する知識」「実習の目的」があげられている。「見学態度」の指摘とともに、これも、医療人教育としての、また態度教育としての本学の歯科医院見学実習の目的を、現場の先生方が的確にご理解いただき指導して下さっていることを示すものである。

表3は、Greshamによるソーシャルスキル概念の構成である¹⁰⁾。歯科医院見学実習は、医療人に求められる社会的適性を構成するソーシャル

表3 Gresham (1986) によるソーシャルスキルの概念の構成

社会的適性 social competence	適応的な行動 adaptive behavior	身体的発達, 言語発達, 学業的な能力
	ソーシャルスキル social skill	対人行動 (権威の受容, 会話スキル, 協力的行動, 遊びなど)
		自己に関する行動 (感情の表現, 倫理的行動, 自己に対するポジティブな態度など)
		課題に関する行動 (注意を払う, 課題の達成, 自立した行いなど)

東京大学大学院教育学研究科 教育測定・カリキュラム開発 (ベネッセコーポレーション) 講座資料より転載

スキルの対人行動, 自己に関する行動, 課題に関する行動の3つの側面から指導, 評価する手段としてきわめて有効であることを示している。また, 治療行為などの歯科医学への動機付けを高めていく手段としても有効であることを示している。本結果では, マナー・言葉遣いなどを学ぶことは, 学生にとって必ずしも望む事でないようであるが, 「必要とされるのだから学んで下さい」という, 社会の要請に応える体験をする場としても, 本見学実習は有意義であるといえよう。

おわりに

なお, 本調査の結果を踏まえ, 2008年度から指導医にお願いして, 大学への評価票とは別に, 学生へのフィードバック用に, 以下の項目について4段階で評価いただき, あわせて学生へのコメントを添えていただいたものを, 事後学習のグループ討議終了後に各学生に渡している。

① 採用面接

- a. 服装 b. 髪型 c. 挨拶 d. 面接の応答 e. 面接態度 f. 実習テーマの準備

② 見学時

- a. 服装 (通院時) b. 服装 (白衣等) c. 髪型 d. 挨拶 e. 言葉使い f. 見学態

度 g. 休憩時間の過ごし方 h. スタッフへの対応

③ 実習全体を通して

- a. 実習テーマに関する理解 b. 歯科医院に対する知識 c. 言葉遣い・マナー d. 実習に対する熱意

望ましい行動を形成するために, 学生には, 自己の行動に対するフィードバックが必要であり, 本チェックリストはその機能を果たしている。また, そこでのいただくコメントは, さらなる学習への動機付けを高める材料となっている。

一方事前教育では, 本調査で寄せられたご意見を参考に「実習の目的」に関しては, SBO'sに当たる「個別実習テーマ」の3領域それぞれについて, 実習必携に学生がテーマを考えるための材料として具体例を掲げた。また, 「見学態度」については, 服装, 電話のかけ方などマナーに関する講義を設けることにした。

最後に, お忙しい中, 見学実習にご協力いただいている歯科医院の指導医ならびにスタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。

謝 辞

本研究の一部は, 日本大学歯学部佐藤研究費

の補助による。

引用文献

- 1) 川本達雄 (2006) 卒前歯科医学教育カリキュラムの現状と改革の方向 『日本歯科医学教育学会雑誌別冊 歯科医学教育白書2005年版 (2003~2005)』40-43.
- 2) 宮川幸夫 (2009) 卒前歯科医学教育カリキュラムの現状と改革の方向 『日本歯科医学教育学会雑誌別冊 歯科医学教育白書2008年版 (2006~2008)』38-43.
- 3) 藤井哲則, 林善彦, 大井久美子, 藤原卓, 吉田教明, 熱田充 (2004) 歯学部1年生の歯科医院における学外早期体験実習 日本歯科医学教育学会雑誌第19巻第1号 136-140.
- 4) 柵木寿男, 三代冬彦, 西田紘一, 屋代正幸, 住友雅人, 吉田隆一, 古屋英毅, 中西泉 (2004) 本学歯学部における第1学年病院体験実習の導入 日本歯科医学教育学会雑誌第19巻第2号 401-408.
- 5) 山崎信也, 齋藤高弘, 鎌田政善, 山崎章, 天野義和 (2005) 本学歯学部1学年における Early Exposure の効果 日本歯科医学教育学会雑誌第21巻第1号 96-101.
- 6) 藤井哲則, 林善彦, 大井久美子, 藤原卓, 吉田教明, 熱田充 (2004) 学外早期体験実習における学生と実習先歯科医師からの評価 日本歯科医学教育学会雑誌第20巻第1号 97-102.
- 7) 藤井哲則, 林善彦, 藤原卓, 吉田教明, 熱田充 (2005) 学外早期体験実習における学生の視点に関する研究 日本歯科医学教育学会雑誌第21巻第2号 133-138, 2005. 杉村仁和子, 石井秀宗, 張一平, 渡部洋 (2007).
- 8) エレン・M・コズグロブ (2007) プロフェッショナルリズム 『21世紀米国医学教育の最前線』第5章 115-136, 金原出版2007.
- 9) 山崎晴美, 尾崎哲則, 網干博文, 上原裕美子, 高津茂樹, 伊藤公一, 桑田文幸, 大塚吉兵衛 (2005) 歯科医院見学実習事前教育教材ビデオ『歯科医院について知る—その機能と役割—』の制作 日本大学歯学部紀要第33号 51-57.
- 10) 杉村仁和子, 石井秀宗, 張一平, 渡部洋 (2007) 序論 『児童生徒用ソーシャルスキル尺度 (SSI-M) 開発研究報告書』p9-13 東京大学大学院教育学研究科 教育測定・カリキュラム開発 (ベネッセコーポレーション) 講座, (<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/sokutei/pdf/vol05/p9-13.pdf>).